

総合的な学習の時間 学習指導案

北広島町立芸北中学校

授業者 T1 田岡 正春

T2 栗栖 裕司

菅 雛子

- 1 日時 令和3年10月12日(火) 5校時(13:40~14:30)
- 2 場所 第3学年教室
- 3 学年 第3学年(男子2名, 女子7名, 計9名)
- 4 単元名 芸北の宝で地域おこし 「芸北マルシェ」
- 5 単元について

(1) 単元観

本校では、第1学年「芸北の宝で地域おこし『目指せ！ジュニアトレッキングガイド』」、第1、2学年「芸北の宝で地域おこし『茅プロジェクト』」と地域を題材に総合的な学習を行ってきた。本単元は、その一連の学習の集大成として3年生が活動を通して学習するものである。「芸北マルシェ」とは、「芸北の商品を売っている市場」という意味で、芸北にある様々な人や物・ことを活用して商品を開発し、道の駅等で実際に販売することで、芸北をアピールしていく取組である。生徒は2年時に行った「茅プロジェクト」で、「広報→茅収集→茅の販売→利益の還元」という「茅プロジェクトのサイクル」に沿って活動し、これまでその利益を災害ボランティア募金に還元したり、地域の人と茅を一緒に刈ったり、茅金市場で茅を持参していただく活動をしたりする活動をとおして、地域の人にとっての生きがいの場所を提供するなど地域に貢献する体験をしている。そして3学年では、材料の購入資金などの融資を受けて、商品の企画・提案や商品作りの取組をしている。

「芸北マルシェ」の取組は、四つの段階から成っている。第1段階は、融資を受けての商品開発である。クラスに三つの会社を作り、それぞれ芸北をアピールする商品を考える。融資担当の教頭に商品開発での提案書を提出して、融資してもらえるように商品の説明を行い、融資の許可を得た後に、材料を集め試作品作りに入っていく。

第2段階は、モニタリング(市場調査)である。試作品が出来上がると、モニタリングを行い、芸北を感じるものか、また、実際売れるものなのか確かめる判断材料にする。モニタリングは、コロナ禍の影響もあるため、有人での調査を行わず、町内4か所で実施する。1か所目は、校内に設置し、中学校の先生やこれまで経験してきた卒業生達が対象である。学校内に商品紹介とともに試作品を展示し、「一番買いたいと思う商品」「買いたくない商品」とその理由を聞くアンケートを行う。その他、千代田道の駅、芸北オークガーデン、芸北ホリスティックセンターなど、外部の意見を取り入れるために実施する。アンケート結果をもとに、試作品の改良を行っていく。

第3段階は、商品販売である。道の駅での販売を2回にわたって行う。販売を前に、商品や接客、店のレイアウトなどについて考える。そして、販売の本番を迎える。商品の展示の仕方、黒字を目指した価格設定、お客さんを引きつける接客など多方面から考えた結果、商品が売れるかどうかという形で、現実として生徒に突き付けられることになる。第1回目の販売の課題を整理し、改善をして第2回目の販売を行っていく。

第4段階は、まとめである。「芸北マルシェ」の取組を振り返り、成果や課題をまとめるとともに、自分達に付いた力を確認していく。「芸北の宝で地域おこし」は、芸北中学校1年から3年まで取組が繋がっている。自分達の活動を振り返り、6つの力(「多面的・多角的な見方・考え方」「課題解決力」「協働する力」「安全・安心をつくる力」「意志力」「自己回復力」)がどの程度ついたかを振り

返る。

以上のような繰り返しの活動が、地域活性化に関わろうとする意識を高めていくとともに、「多面的・多角的な見方・考え方」や「課題解決力」や「協働する力」の育成につながっていくと考える。また、これらの力が身についていくことが「自己回復力」の育成につながり、中学校卒業後もたくましく前に進んでいくことができる力につながっていくはずである。

(2) 生徒観

令和3年度「全国学力・学習状況調査」質問紙において、地域に関わる設問及びその肯定的な回答率は右の通りであった。

地域に関わる質問事項では、前年度の生徒は比較的肯定的な回答が多かったが、本年度の生徒については、地域とのつながりが十分あるとは言えない。一方、人の役に立ちたいと肯定的に思っていることや難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していることに対しては、これまでの「挑戦科」「総合的な学習の時間」などにおいて困難を乗り越えてきた成果である。

さらにクラスの実態でいえば、感想や振り返りを書くことで自分を表現する力がある。一方、自分の思ったことや考えたことを直接相手に伝えることが苦手である。役に立ちたい人間になりたいと思っていながら、一方で、言葉の壁に阻まれ、活動中での意見が滞ることは「協働する力」「課題解決力」を高める上での課題となっている。また、少人数の中での活動は、多様な考え方を自然な形で受ける場面も少ないため、同じような考え方で活動し、新しい発想が生まれなかったり、変に相手を気にしすぎるがあまり自分の意見を心の中に閉じ込めたりすることさえある。

異なった意見に耳を傾け、受容し、それを自分の意見と融合させたり、自分の考えを柔軟に変更したりするなど「多面的・多角的な見方・考え方」が求められるが、十分できているとはいえない。

質問事項	肯定	否定
自分が住んでいる地域の行事に参加しています。	66.6%	33.3%
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあります。	66.6%	33.3%
自分にはよいことがあると思いますか。	66.6%	33.3%
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。	77.7%	22.2%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	100%	0%

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、以上のような生徒の実態を踏まえ、「中学校学習指導要領（平29年告示）解説 総合的な学習の時間編」で記載してある、「目標（3） 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。」を特に重視して進めていく。本単元では、「芸北マルシェ」の活動の中で、生徒がより地域の資源や地域の人を知り、将来芸北の地域おこしのために取り組んでくれるような生徒の育成も大きな目的の一つとしている。この目的の達成のために、まず、本年度は、外部の講師に依頼し、芸北の資源についてお話をいただき、材料の仕入れの方法や地域の人材の活用方法について話を聞き、課題であった地域との関連性の向上につとめる。さらに、モニタリングのアンケートをコロナ禍の中でも地域の各所にアンケートを置いて意見を求めるなどの取組を行うことで、自分たちの商品を地域の人から評価され、また、地域の人へこの活動の意味を知ってもらい、地域との関連性を深める活動を行う。また、企画・製作・評価・販売・評価を繰り返す中で、目指す理想の姿と現在の自分の姿を比較したり、他者との比較をしたりすることで自己の成長や課題に気づかせる。さらに、その課題に対する視点や発想を柔軟に転換したり、これからの生活に役立てようとしたりする姿勢を育てることで、「多面的・多角的な見方・考え方」を身につけさせたい。

本単元で指導者は、「妨げ」となる二つの場を設定している。一つは、融資を受けて商品の開発を行うことである。企画書を提出し、説得し、やっと融資を受けることができるというシステムも「妨げ」だが、融資を受けた以上、それを元手に売れる商品を開発し、販売して利益をあげて返済しなければならないことも大きな「妨げ」となる。材料費にいくらかけ、価格をいくらに設定して最低いくつ売れば採算が取れるのか、「妨げ」を乗り越えるために、会社のメンバーで知恵を出し合い、売れる商品、接客、店のレイアウトを工夫することを繰り返す過程の中で自分とは違った意見や考えなどを出し合い、課題を解決する力を身に付けていけるように導いていく。

もう一つは、販売の場所を道の駅に設定していることである。同じ町内であるが、中学校からはかなり離れた場所であり、お客さんに知り合いはほとんどいない。買いたくなければ買わない、時間がなければ声をかけられても立ち止まってもらえないであろう。そんなお客さんに店に寄ってもらうには、工夫を重ねるしかない。以上のように、より厳しい「妨げ」が生まれる場を設定し、力を合わせて乗り越えていくこと、これらの活動を通じて、自分の意見を述べたり、思いを述べたりすること、モニタリング等による人からの厳しい評価にも会社のメンバーやクラスメイトで真剣に話し合い解決方法を探し、その中で、「多面的・多角的な見方・考え方」や「課題解決力」や「協働する力」を高めていきたい。

6 単元の概要

(1) 単元の目標

商品の開発や販売の成功に向けて取組を繰り返すことを通して、仲間と協働してさまざまな意見や考えを出し合い、「多面的・多角的な見方・考え方」や「課題解決力」「協働する力」を身に付け、芸北の地域活性化にもつなげていこうとする気持ちを育てる。

(2) 単元で身につけさせたい資質・能力

【知識及び技能】

- 課題解決に向けて生じるストレスにうまく対処しながら行動する。(自己回復力)
- 自他の考えの良さを生かして、協働的に課題を解決する。(協働する力)
- 課題に対する情報を集め、整理・分析して解決する。(課題解決力)
- 自分や他の人の安全に気を付けて行動し、安心感を与える。(安全・安心をつくる力)

【思考力、判断力、表現力等】

- 他者との相互交流を通して、新たな意見や考えを持つ。(多面的・多角的な見方・考え方)

【学びに向かう力、人間性等】

- 目標を明確にして、課題解決に向けて主体的に行動する。(意志力)

(3) 単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
①ストレスをうまく軽減しながら行動している。 (自己回復力) ②自分や他の人の考えの良さを生かして、協働的に課題を解決している。 (協働する力) ③自分や他の人の安全・安心に気を	②他者との交流を通して、新たな意見や考えを見出している。 (多面的・多角的な見方・考え方)	①明確な目標を持ち、課題の解決に向けて、主体的に行動している。(意志力)

<p>付けて作業する技能が身に付いている。</p> <p>(安全・安心をつくる力)</p> <p>④課題について情報を集め、整理・分析して解決に結び付けている。</p> <p>(課題解決力)</p>		
---	--	--

(4) ルーブリック評価【多面的・多角的な見方・考え方】

A	B	C
<p>いろいろな人の意見をもとに取捨選択し、自分たちの考えを加えながら改善しようとしている。</p>	<p>いろいろな人の意見をもとに取捨選択し、改善しようとしている。</p>	<p>いろいろな人の意見をもとに改善しようとしている。</p>

(5) 単元計画 (全 45 時)

節	学習活動	時数	指導上の留意点
1	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、芸北マルシェをするのか。芸北の人口状況や産業等について学ぶ。 ・芸北の課題は何か理解する。 	3	<ul style="list-style-type: none"> ・芸北マルシェをする意味を理解させる。 ・講師から、芸北の物を販売するのではなく、芸北の人や物を使って活動することが地域の活性化に寄与することを理解させる。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">課題設定</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で販売するための芸北をアピールできる商品を考える。 ・茅プロ銀行からの融資が受けられるように企画書（モニタリング用）を作り交渉する。 	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各会社で、道の駅で販売する商品を考えさせる。芸北をアピールすることを意識させる。 ・融資の仕組みについて理解させる。 ・融資が受けられるようなセールスポイントを考えさせ、アピールさせる。
2	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ・試作品を作りモニタリングを行う。 ・モニタリングについてまとめ、どのような製品であれば販売で売れるのか改善策を考える。 	10 本時 10/10	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリング用の試作品づくり ・モニタリングの課題を整理・分析して商品の改善すべき点について検討する。
3	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で販売する商品を作る。 	8	<ul style="list-style-type: none"> ・モニタリングの課題を整理させ、販売する商品作りに入らせる。
4	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で第1回目商品販売を行う。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・接客や店のレイアウトも意識させて実施する。
5	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">整理・分析</div> <ul style="list-style-type: none"> ・1回目の商品販売を振り返り、2回目の販売につなぐ。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・商品、接客、店のレイアウトの課題を整理させ、2回目の販売につなげさせる。
6	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">情報収集</div> <ul style="list-style-type: none"> ・道の駅で第2回目商品販売を行う。 	6	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の販売での課題改善を意識させて実施する。
7	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 2px; display: inline-block;">まとめ・表現</div> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返り ・「芸北マルシェ」のまとめを行い、発表する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> ・「芸北マルシェ」全体を振り返り、自分達についた力を確認させる。

7 本時について

(1) 本時の目標

モニタリングで出た意見を整理して、問題点を洗い出し、課題を見つけて、それに向けて解決していく中で、様々な意見を交流させ、新たな意見や考えを見出すことができる。

(2) 本時の評価規準

いろいろな意見を統合・整理したり、新しい視点を考えたりしながら商品の改善策を考えている。

(思考, 判断力, 表現力等①)

(3) 準備物 ワークシート, パソコン, TV, 短冊, ホワイトボード

(4) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意点 ◆「努力を要する」と判断した生徒への指導の手立て	評価規準【観点】
<p>1 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>モニタリングのまとめから、自分たちの班の商品の改善点を考えよう。</p> </div>		
<p>2 自分たちの商品への思いをそれぞれ各班で発表する。</p> <p>3 各班のモニタリング結果について、まとめたものを発表する。</p> <p>4 その中で、自分たちの商品に対する思いとギャップについて考え、その改善策を考える。</p> <p>5 各班でモニタリングでの問題に対する改善点を発表するとともに他からの意見を受けて再検討する。</p> <p>6 再検討した結果を発表する。</p>	<p>◇短冊に短い言葉で記述する。</p> <p>◇各班のモニタリング結果を聞きながら自分たちの問題としても取り入れられるか聞き取る。 ※必要ならばメモをする。</p> <p>◇モニタリング結果・問題点のうち自分たちの商品への思いと問題点の間にギャップがあるものは何か探す。</p> <p>◇商品の改善の視点について教師が述べ、商品発想の一助とする。</p> <p>◇そのギャップを埋めるために、どのように改善していくのか考え話し合う。</p> <p>◇時間があれば、その他の改善点についても検討する。</p> <p>◇他の班から質問やアドバイスも受けながら再度検討する。</p> <p>◇他の班の考えを取り入れられるところを考える。</p> <p>◆必要に応じてアドバイスを行う。</p> <p>◇どんな視点を加えたかについて説明する。</p>	<p>【多面的・多角的な見方・考え方】 いろいろな意見を統合・整理したり、新しい視点を考えたりしながら商品の改善策を考えているか。(行動観察)</p>
<p>7 本時の授業の中から学んだことを振り返らせる。</p>	<p>◇本時の授業から学んだことを何人かに発表させる。</p>	

(5) 板書計画

モニタリングのまとめから、自分たちの班の商品の改善点を考えよう。

各班ごとの商品に対する思い

凜： 思い Mt. ひゅーまん： 思い 和華： 思い

問題点

問題点

問題点

解決策

解決策

解決策